



Shinkoh News

——川口新郷工業団地協同組合——



第36回【日展】入選作品 「ボマルツォの城壁」 森 敬介氏

'05 JAN.66

発行日／平成17年1月27日 発行／川口新郷工業団地協同組合 発行責任者／石川義明 編集責任者／矢野剛

初春を迎えて



理事長
石川 義明

新年明けましておめでとうござい
ます。
平成十七年の年頭にあたり、組合員
の皆様にはお健やかに新春をお迎え
のこととお慶び申し上げます。

昨年は、オリンピックでたくさん
のメダルを獲得し日本人としての誇
りを回復したのもつかの間、新潟の
震災やスマトラ島沖地震という世界

を揺るがす大きな苦しみがありました。
そして、幼な子を狙う、許せない事件
はあとをたたず人々の怒りは高くなる
ばかりであります。

経済は、大・中堅企業を中心とした
一部企業の持ち直しの中、回復傾向に
ありましたが、我々中小企業を取り巻
く環境は依然として厳しく改善に向け
た動きは緩慢でありました。デフレや
不健全な金融システム、量的緩和の三
つの異常もまだ続いております。

又、景気の鍵を握る米国と中国、前
者は財政赤字の拡大が懸念材料であり、
後者はどうにも止まらない勢いであり
どちらもわが国への影響は大です。

その中、当組合では、ここ数年で変
電設備の更新や配電線の取替工事によ

って老朽化懸念の払拭に成功し、共
同受配電が円滑化され、昨年はその
性能の点検を行い初期性能が維持さ
れていることを確認いたしました。

一方、南北を走る緑地帯の回遊路
「ゆうゆう歩道」は当組合のやさしい
イメージをつくり上げ、孤立しがち
な工業団地が隣接住民との連結感や
ふれ合いに役立っております。その
為にも緑地帯の清掃に力を入れ、環
境整備及び保全に努めてまいります
。

又、お気づきかと存じますが長年
見慣れた工業団地入り口のゲート看
板を、今風にアレンジし力強いイメ
ージにいたしました。これを機に、
長く続いている不況の風をふつとば

年頭のごあいさつ



川口市長
岡村幸四郎

新年あけましておめでとうござい
ます。

川口新郷工業団地組合員の皆様に
おかれましては、ご家族お揃いで新
春をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。また、平素、本市政の推進
に対し、格別なご理解、ご協力を賜
り、心から感謝申し上げます。
さて、政府は景気の先行きにつき

まして、国内民間需要の増加が続いて
おり、世界経済の着実な回復に伴って、
景気回復は底堅く推移すると見込ま
れ、一方、情報化関連分野でみられる
在庫調整の動きや原油価格の動向等
は留意する必要があると発表されてお
ります。また、本市における市内景気
は、このところ生産・売上に弱含みの
動きが一部にみられるものの、雇用面
で底堅さが続くなど、引き続き緩やか
な回復基調を辿っておりますが、本市
産業界が本格的な回復軌道に乗るか
は、未だ予断を許さない状況にありま
す。

昨年、本市におきましては、五月二
七日・二八日の二日間にわたり、市内

産業界の多くの皆様のご出席を賜り、
第五回中小企業サミットを盛大に開
催いたしました。当サミットでは、
中小企業が集積する全国十都市の自
治体の首長と商工会議所の代表をは
じめ、事業者、学識経験者等が今後
の地域産業政策のあり方などを幅広
く議論し、その成果をいたしまして、
「川口宣言」「緊急アピール」を採択
し、国・関係機関等へ提出、要望等
を行ったところであります。

学官連携事業を昨年四月から展開し、
十一月にはこの研究成果として、報
告会を開催いたしました。
本年におきましても、産学官連携
の更なる推進を図るとともに、「産業
の振興なくしてまちの前進はない」
との信念のもと、市内景気の確かな
回復まで手を緩めることなく、引き
続き諸施策に取り組んで参る所存で
ございますので、皆様方におかれま
しては、より一層のご支援、ご協力
をお願い申し上げます。
最後に、川口新郷工業団地協同組
合の益々のご発展と組合員皆様方
ご繁栄を祈念申し上げます。年頭のご挨拶
とさせていただきます。

おめでとうございます

☆長寿のお祝い

◇田中特殊铸造株式会社

田中紳六 様



卒寿
(九十歳)

◇有限会社小島昭工業所

小島 昭 様



古希
(七十歳)

☆川口健保理事長ご就任 並びに日展入選のお祝い

◇合資会社森森工場

森 敬介 様

昨年、二度目の「一水会展」での
安井曾太郎賞の受賞に続き第三十六
回「日展」に初入選されました。

また、本年一月より、「川口工業健
康保険組合」の理事長にご就任され
ました。

誠にめでたうございました。
今回のニュースには、森さんと絵
についてご寄稿を願いました。

「嬉しかった。
絵をつづけてきて良かった！」



前理事長
森 敬介

昨年の秋、上野の精養軒で二度目の
安井曾太郎奨励賞の賞状をうやうやし
く受取ったときの実感である。そして
十一月、挑戦していた「日展」の入選
通知がとどいたときの感激、今でもし
みじみと幸せ感がわいてくる……。

例えば洋画では七十年前前に安井曾
太郎等洋画界の巨匠八人が結成したブ
ロ集団「一水会」に応募しつづけて早
や四十年。ふり返ってみると私と絵と
の縁は古く幼い頃からであった。

私は川口本町生まれである。八人兄
弟の三番目で長男。親父は鋳物屋の番
頭で、お袋は産婆であった。四才の頃、
まだ周囲は田畑や竹やぶに囲まれてい
た中青木に引越し、そこで育った。家
の前には当時規模としては大きい農業
用水が勢いよく流れ、桃の花咲く我が
家には木の橋を渡って入らねばならな
かった。川にはフナやうなぎ、なまず
等がいて子供達は魚取りや泳ぎ等で遊
んでいたが時には水難事故もあったよ
うだ。

共稼ぎの両親は留守の間に川にはまり

溺れでもしたらと心配し、外出中は、
家の中で絵をかかせ、外へは出ない
ように仕向けたのである。紙ではも
のたりず、壁等に飛行機や軍艦をク
レヨンで落書きしてもおこられなか
った。そしてたまに客がくると「坊
やうまいね」なんて云われるものだ
から生まれつきのりやすい私は描く
楽しさが小さな身体にしっかりとしみ
こんだ。

お陰で入学してからも図画と音楽
だけは常に良い点をとり廊下等に張
り出された。ただし修身(道徳教育)
は最後まで苦手だった……。

幸町小、青木中学、浦高と進み、
受験戦争から開放された早大では講
議は大いにサポリ美術部の部屋や周
辺の喫茶店に入りびたつて、わけの
わからぬ絵画論を交わしたのが今は
楽しい思い出となっている。お茶代
等は殆んどその店のマッチのデザイ
ン代で間に合った。

やがて、父の長い病氣もあって家
業をつぎ夢中で働きはつとした三十
才頃、縁あって忘れていた絵を又始
めるようになった。指導を受けた先
生が学生時代にあこがれていた一水
会に所属していたので熱が入るのに
時間はかからなかった。仕事、青年
会議所、選挙運動、飲み屋通い等々
コマねずみのような日々。度重なる
不景気の到来、逆に手不足で追われ
ている時も何とか描きつづけた。
又初期の頃、県展や一水会展に落

そうと思います。

今年こそ、私達の「底力」を發揮
しようではありませんか。

力と勇氣と信念をもつて頑張つて
まいりましょう。

組合員の皆様におかれましては、
何とぞ倍旧のご理解と絶大なるご支
援ご協力を、ひき続き賜りますよう
お願い申し上げます。

終わりに、本年が組合員の皆様
にとりまして、心身共に健全で、希望
に満ちた明るく実り多い年となりま
すよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶
といたします。

選の憂き目にあった時も「何クソ！」
と続けた。結局好きだから続けられ
たのだが……。更に白状すれば絵を
やっていることで何かにつけて女性
にもてる？ということも大きな励み
になっていた。

さて、絵をかかるとき少しでもいい
作品を！と念じつつ筆をはこぶが、
それには少なくとも常に美しさや対
象の魅力に感動する心とそれを伝え
る表現力の研鑽が欠かせない。
自然を師とし、出来た作品が見る人
に何かを語りかけるようであらねば
と思っている。

今年も正月元理事長笠松氏、前事務
局長橋本先生と写生に出掛けたが、
これからも精進を喜びと共に続けら
れればと願っている。

最後に、新年を迎え何かとお世話
になつている我が工業団地の皆様
のご多幸と世界が災い少なく、そして
少しでも平和な世界になりますよう
祈っています。



川口トラック協同組合

との異業種交流会

平成十六年十一月十六日、川口トラック協同組合と交流会を開催いたしました。

出席者 川口トラック協同組合

倉田理事長以下七名

当組合

石川理事長以下六名

倉田理事長の交流会開催に当たっての主催者挨拶、つづく石川理事長の挨拶のあと、

川口市の景況

・トラック業界に対する異業種企業からのイメージ

・荷主としてトラック業界に求めるもの

・各社における雇用の状況

・優秀な人材を確保するための工夫、福利厚生事業

などについて、午後五時より市内「江南春」にて二グループに分かれ、形式にこだわらず、雑談を交えながら熱心に討議を行いました。



倉田理事長挨拶

親睦旅行

去年の組合親睦旅行は、八月のアンケート調査の結果、山梨県河口湖方面にて、ゆつくり出発のんびりと温泉で過ごし日頃より多忙の心と体のリフレッシュを図ろうと企画し、十月三十日(土)・三十一日(日)の日程で、二十六名の参加を頂き実施となりました。

出発当日は、生憎の雨となりましたが、参加者の皆様のご協力では予定時刻に新工会館を出発、紅葉シーズンのということもあり首都高速、中央自動車道とも渋滞の中一路山梨へ、今回昼食は、初の試みとして夜ご馳走を食べるのだから各人の判断で好きなものを食べる事とし、談合坂サービスイリアにて自由食となりました。昼食をすませ、武田神社・山梨県立美術館の観光を予定していましたが、雨のため屋根のある山梨県立美術館のみの絵画鑑賞となりました。

山梨県立美術館は、昭和五十三年に開館以来「ミレーの美術館」として知られ「種をまく人」・「落ち穂拾い」・「晩鐘」等油彩画と版画が多数展示されており、他にもロダン、ヘンリー・ムーアの彫刻ルソー、タナー、コロ、シャガール、藤田嗣治、梅原龍三郎の絵画など国内外の優れた作品が展示されており、美術館の係員の説明と当組合の森画伯の



石川理事長挨拶



両理事長

会場の都合により二時間ほどで終了となりましたが、有意義な会であったため、参加者の中には近い内にもう一度開いてほしいとの声が上がっているほどでした。

団地入り口アーチ

昭和五十八年七月に建設して以来、何回か塗装工事を重ね、前回平成七年に続き、十一月二五日、入り口アーチの塗装工事が完了しました。塗装工事を今年度予算に計上、企画委員会(委員長小林常務理事)にて幾度に渡り検討、看板の文字や色を変えました。

また、アーチ中央の組合マークについては取付部(土台)の腐食が著しいため取り外しました。予算・機会を捉えながら再取付の検討を続けていきたいと思えます。

なお、今般の塗装工事には、森前理事長に格別なお世話をいただいたことご報告いたします。

団地入り口側

(旧) 川口新郷工業団地協同組合

(新) ようこそ川口新郷工業団地



団地出口側

(旧) 川口新郷工業団地協同組合

(新) ものづくりは新郷工業団地



研修会開催のお知らせ

埼玉県中小企業団体中央会の助成を受けて次のとおり、新工会館二階会議室にて研修会を開催いたします。

別途ご案内いたしますので、組合員並びに組合員幹部の皆様、多数のご参加をお願いいたします。

①平成十六年度組合等集中支援事業

日時、二月二十五日(金)

十三時～十七時

二十六日(土)

十時～十七時

テーマ 経営革新を進める為のビジョンの構築について

・新しいビジョンづくり

・目標達成システムの理解

・組織のビジョンづくり

・組織ビジョンの共有化

講師 (株)日本共同システム

NKS能力開発センター

②六十五歳継続雇用について

日時、三月十日(木)

十五時三十分

～十七時三十分

テーマ ・雇用延長制度の現状

・阻害要因

・制度導入にあたり

講師 (社)雇用開発協会

埼玉県社会保険労務士協

お話を聞きながら芸術の秋の一時を楽しみました。

美術館を後に今晚の宿である三年前にリニューアルされた「丸栄」へ、早速温泉を楽しみ懇親会となりました。理事長の挨拶、仲道相談役の音頭による乾杯の後、カラオケ、恒例の小林常務理事による空くじなしの景品付きクイズ大会を行い盛会のうち定刻となり久保木専務理事の中心締め、イズミ化成・樋口社長の本締めで閉会となった。



翌日は、雨も上がり河口湖畔の紅葉を楽しみつつ散策、朝食後宿をあとに甲府へ。甲府ではサントリー登美の丘山梨ワイナリーにて、遠く富士山を眺めつつ広大な葡萄畑の中、

バーベキューの昼食を楽しみ、ワイン貯蔵所を視察、ワインの楽しみ方を聞きながらテイステイングを楽しみ、山梨ワイナリーを後に帰路につきは予定通りの午後六時に新工会館到着となりました。

ご参加の皆様、企画運営をされた総務委員会の皆様、特に幹事長矢野総務委員長ご苦勞様でした。



1杯千円の貴腐ワインを片手に!

ボーリング大会報告

平成十六年十月八日、新郷グラウンドボールにて、参加者七十二名、十八チームで実施、大西副理事長のあいさつ・始球式のあと二ゲームでの熱戦を繰り広げました。

優勝



準優勝



◎団体賞(敬称略)

優勝 モリテユウA

準優勝 神陽金属工業A

三位 ミノル機械製作所

七位 大西精工所

ブービー 石川金属機工パワーアップ

◎個人賞(敬称略)

ハイゲーム賞 津上紀一

当日賞 八位 菅野啓一

◎順位賞の皆様(敬称略)

越田輝夫、大西壯三郎、鈴木一夫

福田 実、和気孝之、神田修三

千代田三夫、マル

表彰式、大槻事業委員長の閉会のあいさつにより和気あいあいと盛会のうちを終了しました。

今年度二回目の新春ボーリング大会を二月四日(金)に実施します。参加者皆様のますますのご活躍が楽しみです。

第四回秩父札所巡り

去る十一月六日、第四回秩父札所めぐりを実施しました。

当日は、三回目同様の好天気に恵まれ参加者二十名で一路秩父路に、前回は、札所めぐりを始める前に、荒川にて長瀬ライン下りを楽しみました。今回は、三峯神社にて紅葉狩りを楽しみ、バスを走らせました。

三峯神社は、日本武尊により建立され、景行天皇の東国巡行の際に三山が美しく連なる所から「三峯山」と名付けられ、お社には「三峯宮」の称号を賜ったそうです。



当日は、好天の上に紅葉のベストシーズンでもあり秩父市内より交通渋滞に巻きこまれ予定より一時間遅れの到着となり、しかも三峯神社に通ずる参道が狭くバスがトンネルを

通れないことが判明、急遽ロープウェイに乗り換え車中より遠く連なる赤や黄色に染まった山々を堪能しつつ山頂の三峯神社へ、最近改修が済み鮮やかな漆塗極彩色が蘇ったご本殿をお参りし昼食場所であるいのしし亭に向かいました。

今回に限りと先達のお許しにより御酒を頂き、いのしし鍋に舌鼓を打ち良い気分となり「もう札所めぐりをお休みにして帰ろうか」との声もありましたが、何件でも良いから帰ろうと言うことになり、札所めぐりへ出発。

四方を山に囲まれ落ち着いた雰囲気を醸し出す庭園風の境内の石段を登ると、朱塗りの格調高い観音堂の三〇番法雲寺、参道入口に見事な枝垂れ桜があり、境内には青々とした孟宗竹に囲まれた緑あふれる、間口七間の堂々とした寺で正面に掛かる桜花の図は葛飾北斎の筆によると言われる二九番長泉院、周囲の木々を映し出す弁天池の脇を通り孟宗竹に囲まれた観音堂の二十五番久昌寺は別名御手判寺と言われ、御手判（通行手形）を戴くと閻魔大王庁を無事通れるそうで、戴いた人がいたかどうかは定かではありません。辺りが暗くなってくる中、二十四番宝泉寺に着くと目の前に百十七段の石段が・・・息を切らせて登ると、武甲山を望む田園風景が広がりしばしの休息の後、最後の般若心経を唱え、

納経し予定通り四ヶ寺をめぐり第四回秩父札所めぐりを終えることができました。

次回は、暖かくなって花の咲く四月十六日（土）実施です。花見をしながら四ヶ寺をめぐり最後に三十四番水潜寺にて結願となります。

（大槻・石田）



組合よりお願い

昨年十二月、団地時計塔付近に立てられていた木の柱が道路側に倒れ走行していた乗用車の前面ガラスに突き刺さった事故がありました。

幸い人身事故に至りませんでしたが、非常に危険な状態にありました。

つきましては、事故防止の観点から団地内で危険な状態にあると思われる箇所を見かけましたら組合（電話二八五―一七六六）あて、ご一報下さるようお願いいたします。

新高速道路料金別納制度

現行高速道路料金別納制度に代わり「大口・多頻度割引制度」の運用が、四月一日より開始されます。

この制度は、従来の別納制度と異なり車両にETC車載器を取付けることが、制度を利用するための前提条件となりました。

現行制度では、加入者の通行料金の合計によって割引金額が決定されましたが、新制度では、車両一台ごとに利用額に応じて**最大二十%**の割引が受けられます。

ただし、割引の対象額は、全体の通行料金から首都高速の料金を除いてさらに深夜割引などの適用を受けたあとの金額になります。

*一ヶ月のご利用金額が一万円以下の場合、「ETC前払い割引制度」のほうが割引率でいえばお得です。

なお、現在ETC車載器を取付けていない車両は、新制度を利用できないため、提携先である「協同組合情報サービス」から、セットアップ料金と取付工事は自己負担で車載器の無料貸与が受けられます。

ご利用希望の組合員さんは組合までご連絡下さい。

（☎二八五―一七六六）